# さわやかあいさつ

No.４　　有脇小学校校長だより　　平成３０・５・２８

## ありがとう

学校生活支援員の梶田裕子先生が体調を崩されて退職されました。現在も入院治療をされています。梶田先生から有脇小学校の子どもたちに，心温まるお手紙をいただきました。ここに１４年間有脇小学校につとめられた梶田先生の思いのこもった手紙を掲載します。

有脇小学校のみなさんへ

こんにちは。支援員の梶田裕子です。わたしは今，病気になり入院して学校へ行くことができなくなりました。みなさんに「さようなら」が言えなかったので手紙を書きます。わたしが有脇小学校にお仕事に来たのは１４年前，そう，６年生のみなさんが生まれる前です。小学校に来てとてもうれしかったのは，みんながわたしに「ありがとう」と言ってくれたことです。わたしの中にはいっぱい「ありがとう」があります。病院のベッドの上で，何もできなくてつらいとき，「ありがとう」なら言えることに気がつきました。それからは，看護師さんやお医者さんにいっぱい「ありがとう」を言っています。「ありがとう」を言うと，みんなにっこりしてくれます。わたしの心も温かくなります。有脇小でいっぱい「ありがとう」をもらって本当によかったです。みなさんも「ありがとう」が言える人，「ありがとう」を言われる人になってください。

有脇小学校「ありがとう」　　さようなら

梶　田　裕　子

５月２２日，５年生が田植えを行いました。種まきから指導いただいて，育った苗を植えました。地域の「有脇の農地・水・緑を守る会」のみなさんを中心とした方々に指導いただきました。子どもたちは，初めて入る田んぼの泥の感触に歓声を上げ，慣れない手つきで田植えを始めました。転びそうになる子，顔に泥が付く子，みんな楽しそうに田植えをしていました。子どもたちながらにペースも上がり，約５０分で田んぼの半分ほどの田植えを終えました。ここからはＧＰＳ機能付きの「田植機」の登場です。後の半分を１０分足らずで植え終えてしまいました。子どもたちはほんの少しではありますが，米作り，働くことの大変さ，働くことの意義を感じ取ったと思います。この田植え（一連の稲作体験）は，地域の方々の全面協力無しでは実現しません。本当にありがとうございました。（消防倉の南，県道沿いの田んぼです。）

## 名古屋弁講座

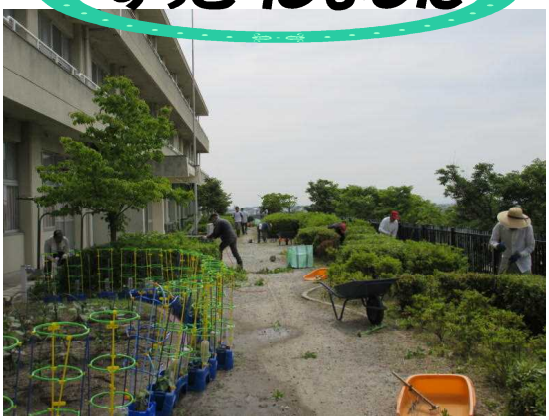
わたし（校長）は名古屋弁をよく使います。自然に出てしまいます。時々，子どもたちに「何を言っているのか分からない」と言われます。名古屋めしが少しだけブレイクしていますが，名古屋弁も知ってほしいなと思います。子どもたちには郷土の言葉として伝えていきたいと思います。（半田は三河弁も混在しています。）

冷えたビールに枝豆ですね

では，わたしがよく使う名古屋弁を名古屋弁講座第１弾として少し紹介します。

○「えーかしゃん」→「いいのだろうか」　使用例：「こんなんでえーかしゃん」
○「えらい」→「疲れた」　使用例：有脇小の坂を上った後で「あーえらっ」
○「よーけ」→「たくさん」　使用例：「よーけもってりゃあたに」
○「まあかん」→「もうだめだ・もうゆるさん」　使用例：「とれーことやってまあかん」
○「つる」→「もちあげて動かす」　使用例：「教室掃除はまず机をつってね」

## すっきりしました



学校応援団のせん定ボランティアの方々が１３名来てくださいました。校舎の南側と東側の植え込みを中心にせん定をしてくださいました。ツツジの季節が終わって，勢いよく草木が伸びています。有脇小学校は緑の豊かな学校ですから，せん定ボランティアのみなさんの力はとてもありがたいです。すっきりした植え込みの横の学年園では，２年生がトマトやナスなどの苗（生産組合からのいただきもの）を植えました。１年生のアサガオもきれいに並んでいます。みなさん大変暑い中，ありがとうございました。

## 魅惑のアウトリーチ

セントレア愛知交響楽団から４名の演奏家をお招きして，アウトリーチ（現場出張）授業を行いました。半田市が市内小学４年生を対象に行っている音楽の授業です。今回はバイオリン，ファゴット，ホルン，ピアノの編成でした。楽器の構造や音の出る仕組みなどをわかりやすく説明してくださいました。音色の特長を生かした楽曲も何曲か演奏してくださいました。体験コーナーではトランペットとバイオリンの演奏を体験しました。バイオリンでは１音しか音を出していないのに，いつの間にか４人の演奏家とのアンサンブルになっていました。最後に全員で「はじめの一歩」を合唱しました。生演奏は直に心に響きます。しかし生演奏を聴く機会はなかなかありません。有脇小４年生はすてきな体験をさせていただきました。